

優 秀 賞

未来へのバトン

鹿沼市立栗野中学校二年

塩 地 歩 佳

私の家の近くには、賀蘇山神社という緑豊かな神社があります。この神社は、私の家族が毎年初詣をするだけであく、年に一度例大祭の日にお囃子を演奏させていただいてもいる特別な場所です。

「思い入れのある身近な緑」と聞いて、私は真つ先にここが浮かびました。それはきつと、この神社で多くの木々に囲まれ、楽しそうに笑った皆さんの家族の写真を思い出したからだと思います。

その中でも特に印象に残っているのは、境内にあるとても大きな杉の切株と一緒に写っている小さい頃の私の写真です。その切株は樹齢千八百年程で日本一長寿とされ、とても大きくて私はいつもフワフワしながら見ていたのを覚えています。そして、もう一枚は、拜殿の前で撮った家族写真です。私が生まれてからずっと初詣に行くとき必ず同じ場所で撮っているのです。もう十三枚目です。四枚目に弟が現れ、六枚目で祖父が消え、改めて見返すと私の人生の年表のようです。たくさんの変化があった人生ですが、どの写真にも私達を優しく見守り続けてくれている周囲の木々と家族の笑顔がありました。母はこの写真を、「我が家の幸せの記録だ。」と言ったことも大切に保管しています。以前に母の小さい時の写真を見せてもらったことがありますが、そこにもまた、同じ拜殿の前で笑つた母の姿があり、何だか不思議な気持ちになりました。

この神社には、大杉の切株だけではなく、樹齢百年程の木も多くあり、その老木達は、ものすごい速さで変わっていくこの世の中をどんな風に見ているのでしょうか。三百年以上前からあるこの場所は、祖母から母へ、母から私へ、そして私から未来への子供へとバトンのように受け継がれるであろう大切な

場所です。たくさんの緑に囲まれたこの場所は、私達家族をつなぎ、数え切れないぐらいの楽しい思い出を作ってくれました。未来の子ども達にとってもここをそんな特別な場所にしたいと思っています。そのためには、これから生きたる私達が、こつした場所を守っていかねばなりません。

しかし、近年では、神社の木々は排気ガスや老化により、今の状態を保つのが困難になっているそうです。地域の方々によって、清掃活動や樹木調査など様々な保全活動が進められているようですが、やはり大変なことのようです。私も何度かこの活動に参加したことがありますが、木々を脅かす害虫の外来種が存在し、ペットボトルを中心とした大量のプラスチックごみが散乱していることや、思いのほか荒れはてていたことにも驚きました。そんなひどい現状を変えるにはものすごい労力と時間がかかるそうです。

それでも、「このひどい現状を変えたい」「少しでも環境破壊を食い止めたい」と思えるような人が何人か集まれば、その分できる事が幅広く、効率的になります。そのためには、人を募集しなければいけません。

そのため、私が住んでいる地域の回覧板には、「環境保護に参加しよう」という内容のチラシのようなものが入っており、集まった人達で環境保護の貢献につながるような活動や、意見を出し合うという活動を行っています。

ボランティアの参加や「三拾い」などの今の私でもできることを一つ一つやっていきたいと思っています。この作文がその役に立つことを願っています。

